

青少年の学校や近隣におけるソーシャル・キャピタル尺度の作成

○高倉実（琉球大学），濱畑有衣子（琉球大学大学院保健学研究科），
上地勝（茨城大学），栗原淳（佐賀大学）

【背景】最近，健康の社会的決定要因として，ソーシャル・キャピタル（以下 SC）が注目されている。SCは一般的には人々の間の協力を容易にさせる信頼，規範，ネットワークといった社会的資源のことで，信頼や互酬性などの認知的要素とネットワークや組織参加などの構造的要素に分けられ，個人および集団レベルの特性として捉えられる。これまで SC と健康に関する研究は大人を対象としたものが多く，青少年に関する研究は乏しい。青少年の SC 測定については，精神測定的検討を経た自己評定尺度の不足や準拠集団としての学校の軽視などの問題があげられている。本研究は，青少年の自己評定による SC 尺度を作成し，その妥当性・信頼性を検証することを目的とした。

【方法】便宜的標本として，茨城，佐賀，沖縄から選出した高校 6 校の計 37 学級に在籍する生徒 1,362 名を対象に無記名自記式の質問紙調査を行った。標本のうち，欠席者や調査拒否者を除く 1,241 名を分析対象とした。安定性の検討のために，協力校 1 校の生徒 118 名を 2 週間間隔で再調査した。SC 項目は先行研究を参考に，学校および近隣における認知的 SC（7 項目，5 項目）と構造的 SC（各 1 項目）を選定した。SC と健康の中間

変数あるいは結果変数と考えられる項目（帰属意識や安全など）は含めず，曖昧な概念をそぎ落として，学校および近隣の信頼，互酬性，ネットワークに絞って測定することを目論んだ。本研究は琉球大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得た。

【結果】認知的 SC 項目を因子分析したところ，生徒間の信頼や互酬性，近所の人々の信頼や互酬性，先生に対する信頼に関する 3 因子が抽出された（表 1）。次に，検証的因子分析で学校および近隣の認知的 SC の 2 次因子モデルを検討した。さらに 2 次因子モデルで確認された尺度と組織活動参加を評価した構造的 SC 項目を観測変数とした全体的 SC 因子構造モデルについて検証したところ，GFI=.99，AGFI=.97，RMSEA =.06 と高い適合度を示し，因子的妥当性が認められた。各 SC 尺度の内的整合性は $\alpha = .92 \sim .94$ ，再テスト信頼性は .48～.81 と適当な値であった。SC と学校や近隣の安全性との間に正の相関がみられ，併存的妥当性が認められた。健康指標（主観的健康，抑うつ，身体活動，喫煙，飲酒）に対する SC の予測的妥当性を検討したところ，概ね予期した方向の関連性がみられた。しかし，近隣の構造的 SC は喫煙や飲酒と正の相関を示し，健康悪化方向の

関連がみられたことから，いわゆるダークサイドの面を持つものかもしれない。

【結論】本研究で作成した SC 尺度は概ね適当な信頼性と妥当性を有することから，青少年の SC と健康に関する研究に使用可能なことが示唆された。今後は対象集団を広げて尺度の標準化などの検討を重ねる必要がある。

E-mail: minoru@med.u-ryuky.ac.jp

表 1. 認知的ソーシャル・キャピタルに関する質問項目の探索的因子分析結果

	因子		
	1	2	3
私の学校の生徒は，親切でたよりになる	.951	-.033	-.028
私の学校の生徒は，お互いに助け合う	.912	-.034	-.023
私の学校の生徒は，信頼できる	.882	.008	-.002
私の学校の生徒は，多くの場合，他の人の役に立とうとする	.811	.045	.031
私の学校の生徒は，お互いに理解している	.778	.030	.049
近所の人々は，お互いに助け合っている	-.020	.927	-.030
近所の人々は，多くの場合，他の人の役に立とうとする	.008	.888	-.032
近所の人々は，親切でたよりになる	.005	.850	.030
近所の人々は，お互いにうまく知っている	-.018	.830	.029
近所の人々は，信頼できる	.035	.812	.005
私の学校の先生は，信頼できる	-.009	-.010	.988
私の学校の先生は，親切でたよりになる	.041	.012	.883
固有値	6.1	2.7	1.1
寄与率	50.5	22.5	9.6